TADOKU JUNIOR　イソップ物語　★★☆☆☆ みじかい　248語

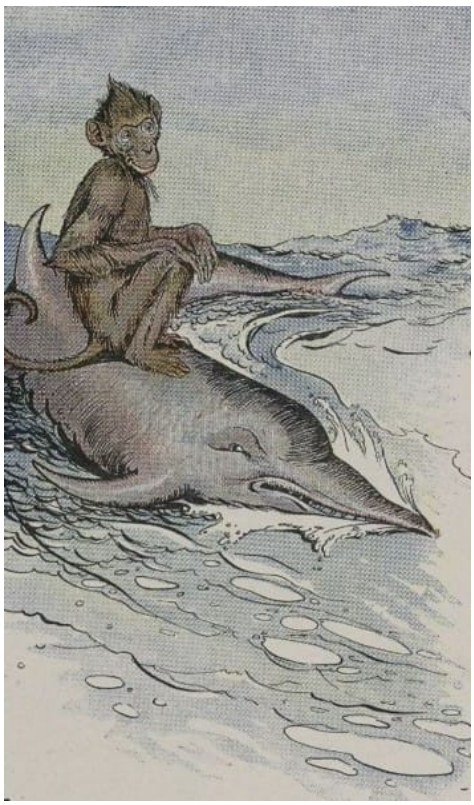
The Monkey and the Dolphin

サルとイルカ

Aesop（1919年の本）　原文そのまま　朗読：Lee Smalley

人の声の朗読
を聞く・Web版

どんなおはなし？　しずんだ船から、イルカがサルを人間とまちがえてたすけます。サルはとくいになって、知ったかぶりをしますが……。



It happened once upon a time that a certain Greek ship bound for Athens was wrecked off the coast close to Piraeus, the port of Athens. Had it not been for the Dolphins, who at that time were very friendly toward mankind and especially toward Athenians, all would have perished. But the Dolphins took the shipwrecked people on their backs and swam with them to shore.

Now it was the custom among the Greeks to take their pet monkeys and dogs with them whenever they went on a voyage. So when one of the Dolphins saw a Monkey struggling in the water, he thought it was a man, and made the Monkey climb up on his back. Then off he swam with him toward the shore.

The Monkey sat up, grave and dignified, on the Dolphin's back.

"You are a citizen of illustrious Athens, are you not?" asked the Dolphin politely.

"Yes," answered the Monkey, proudly. "My family is one of the noblest in the city."

"Indeed," said the Dolphin. "Then of course you often visit Piraeus."

"Yes, yes," replied the Monkey. "Indeed, I do. I am with him constantly. Piraeus is my very best friend."

This answer took the Dolphin by surprise, and, turning his head, he now saw what it was he was carrying. Without more ado, he dived and left the foolish Monkey to take care of himself, while he swam off in search of some human being to save.

> **One falsehood leads to another.**

むかしむかし、アテネへむかっていたギリシャの船が、アテネのみなとピレウスの近くの海で、しずんでしまいました。もしイルカがいなかったら、みんなたすからなかったでしょう。そのころのイルカは、人間、とくにアテネの人たちととてもなかよしだったのです。イルカたちは、船がしずんでこまっている人たちをせなかにのせて、岸までおよいでいきました。

さて、ギリシャの人たちは、船で旅に出るときには、かっているサルや犬をつれていくならわしがありました。そこで、1頭のイルカは、サルが水の中でもがいているのを見て、人間だと思い、サルをせなかにのせてやりました。そして、サルをのせて岸へむかっておよぎだしました。

サルは、イルカのせなかの上で、まじめな顔をして、どうどうとすわっていました。

「あなたは、あのりっぱなアテネの町の人ですね？」とイルカはていねいにたずねました。

「そうだよ」とサルはとくいそうに答えました。「ぼくの家は、町でいちばんりっぱな家のひとつなんだ。」

「そうですか」とイルカは言いました。「それなら、もちろんピレウスにはよく行くのでしょうね。」

「うん、うん」とサルは答えました。「よく会うよ。いつもいっしょさ。ピレウスは、ぼくのいちばんの友だちなんだ。」

この答えにイルカはびっくりして、ふりむいてみると、自分がはこんでいるのが何なのかがわかりました。イルカはそれいじょう何も言わずに、水にもぐり、おろかなサルを自分でなんとかするようにのこして、たすけるべき人間をさがしにおよいでいきました。

> **ひとつうそをつくと、またうそをつくことになります。**

たんご と クイズ サルとイルカ

ship 船	**Dolphins** イルカ	**backs** せなか
monkeys サル	**dogs** 犬	**water** 水
friend 友だち		

Q1 **イルカがサルをせなかにのせたのはどうして？**

① サルとなかよしだったから　② サルを人間(にんげん)だと思(おも)ったから　③ サルにたのまれたから

Q2 **ピレウスとは、ほんとうは何(なに)？**

① サルの友(とも)だち　② イルカの名前(なまえ)　③ アテネのみなと

こたえ

Q1 ② 水(みず)の中(なか)でもがいているサルを見(み)て、人間(にんげん)だと思(おも)ったので、せなかにのせてたすけてあげました。

Q2 ③ ピレウスはアテネのみなとの名前(なまえ)です。サルはそれを知(し)らずに、友(とも)だちの名前(なまえ)だと思(おも)ってうそをつきました。

原田英語の多読ベストジュニア
本物の英語の絵本 1,000話以上を、原文・人の声の朗読・和訳つきで。ゲーム・なぞなぞも。ぜんぶ無料・登録なし。
haradaeigo.com/tadokubestjr/

出典 英文：原文そのまま（1語も書きかえていません）。Project Gutenberg 電子書籍 #19994（Aesop、1919年）。パブリックドメイン。
挿絵：Milo Winter（同じ本の初版の挿絵。パブリックドメイン）
朗読（Web版）：Lee Smalley（LibriVox のボランティア。パブリックドメイン）
和訳・クイズ：AIと人が作成。AIは３重チェック。人の目でも順次確認しています。